

## 用美5.0、それは用美が提案する おもてなしの新しいカタチ。

「もてなす」という言葉は平安時代から使われていました。「もて」と「なす」から成り立ち、「もて」には「手を用いて～する」「心で大切に～する」などの意味があります。一方「なす」には積極的に働きかけることによってこれまでになかったものを存在させる。すでに存在しているものに働きかけ、これまでとは別のものに変化させる意味を示すときにも使われてきました。これらは、用美がこれまで示してきた姿勢につながるものです。

用美の変遷は、和食を中心に使い手の立場で道具や器を提供してきた(用美1.0)から始まり、和食だけではなく洋食、中華など様々なジャンルにも使用できる可能性を示した(用美2.0)、道具や器だけでなく和の空間創りを提案する(用美3.0)、新しい技術とデザイン、新たな作り手、これまでの枠にとらわれないあり方を見せた(用美4.0)、そして、和食が世界のスタンダードとなった今、用美の根底に流れる「和の心」は、おもてなしの世界をカタチ創る、道具、器、スタイル、空間で発揮されます。それが、用美の次のステージ、目指すべき新しいおもてなしのカタチ、用美5.0と考えます。

用美5.0は、用美が提案する道具、器、什器などを用いて生まれるスタイル・空間に、「和の心」を大切にした新たな価値、別の価値を生み出していくものです。

用美  
5.0  
展

# concept